

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間: 2004年9月中旬から10月下旬までの旬別

対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業: さんま棒受網漁業

対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量: 9月中旬には低位から中位に増加し、9月下旬頃ピークに達する。10月上旬には減少が始まり、その後急激に減少し、10月下旬には低位水準で推移する。

(2) 漁場: 9月中旬には、落石～釧路沖に加え、襟裳岬周辺でも漁場ができる。この傾向は10月上旬まで持続するが、来遊量が急減するのに伴い、落石～釧路沖の漁場が散発的となり、襟裳岬南沖が主漁場となる。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 9月中旬は低位水準で経過するが、9月下旬に急増し、中位水準となる。その後10月中旬までは中位水準で経過し、10月下旬から減少する。

(2) 漁場: 9月中旬には北部の八戸～宮古沖が主漁場となる。10月上旬には、北部から南部にかけて断続的に漁場ができる。10月中旬以降は南偏傾向となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 9月下旬以降、低位水準ながら来遊があるが、本格的に来遊するのは10月中旬以降となる。10月下旬には、平年並みの水準で推移する。

(2) 漁場: 9月下旬には、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。来遊が本格化する10月中旬以降は、常磐南部から鹿島灘が主漁場となり、持続する。

2. 予測の概要

海 域		9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位増加	中位減少	急減	低位水準
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬周辺	落石～釧路沖・襟裳岬周辺	落石～釧路沖・襟裳岬周辺	襟裳岬南沖	襟裳岬南沖
三陸海域	来遊量					
	動向	低位水準	急増	中位水準	中位水準	中位低下
	漁 場	八戸～宮古沖	八戸～宮古沖	北部～南部	南偏傾向	南偏傾向
常磐海域	来遊量					
	動向		断続的	断続的	低位増加	中位水準
	漁 場		北部	常磐南部～鹿島灘	常磐南部～鹿島灘	常磐南部～鹿島灘

3. 漁況の経過概要

(8月下旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

道東海域まで来遊した魚群が少なく、資源量指数から判断した来遊量の水準は、平年・前年を下回る水準であった。日別 CPUE (1網当たりの漁獲量) から判断すると、期前半は徐々に来遊量が減少したが、期後半には来遊量が多くなった。

(2) 漁場

落石南東 15 海里 ~ 霧多布南 20 海里付近の表面水温 14 ~ 15 が主漁場であった。

期初めは、主に小型船が操業し、1 隻当たり 1 トン程度と不漁であった。群は薄く小さく、灯付は不良 ~ やや不良。漁場は、沿岸を南下する親潮の先端付近であり、沿岸での親潮の南下が弱まった 24 日からは漁場がほぼ消滅した。

その後、沖合から親潮が、 $41^{\circ}45' \sim 42^{\circ}30' \text{ N}$ ・ $146^{\circ}20' \sim 148^{\circ} \text{ E}$ 付近にある暖水塊の南を回り込み、落石沖まで張り出した 26 日以降、再び漁場となった。

大型船で 16 ~ 30 トン・小型船で 4 ~ 10 トンと好漁になり、29 日まで持続。群はハネ群で灯付はやや不良であったが、後にやや良好となった。

30・31 日の夜は、台風 16 号の影響により、操業した船は少なかった。

(3) 魚体

30 ~ 32cm の大型が主体で、昨年同時期よりも大型の割合が高かった。24 日頃から 26 ~ 27cm 台の中型の割合が増加した。